



人をつくり、時代を拓く。

福岡大学



神戸大学

## 様々なステークホルダーとの連携



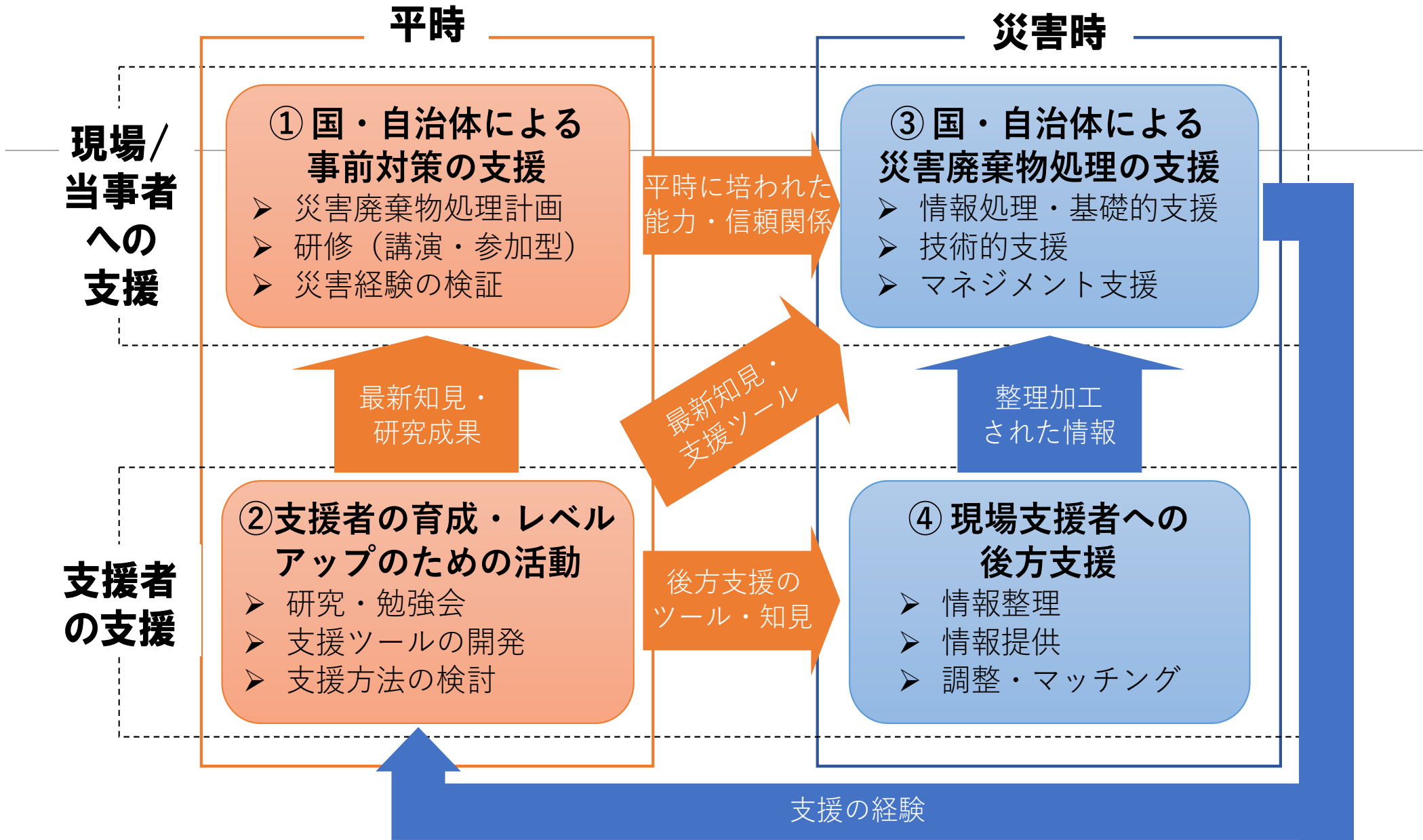
福岡大学 ○鈴木慎也  
神戸大学 田畑智博



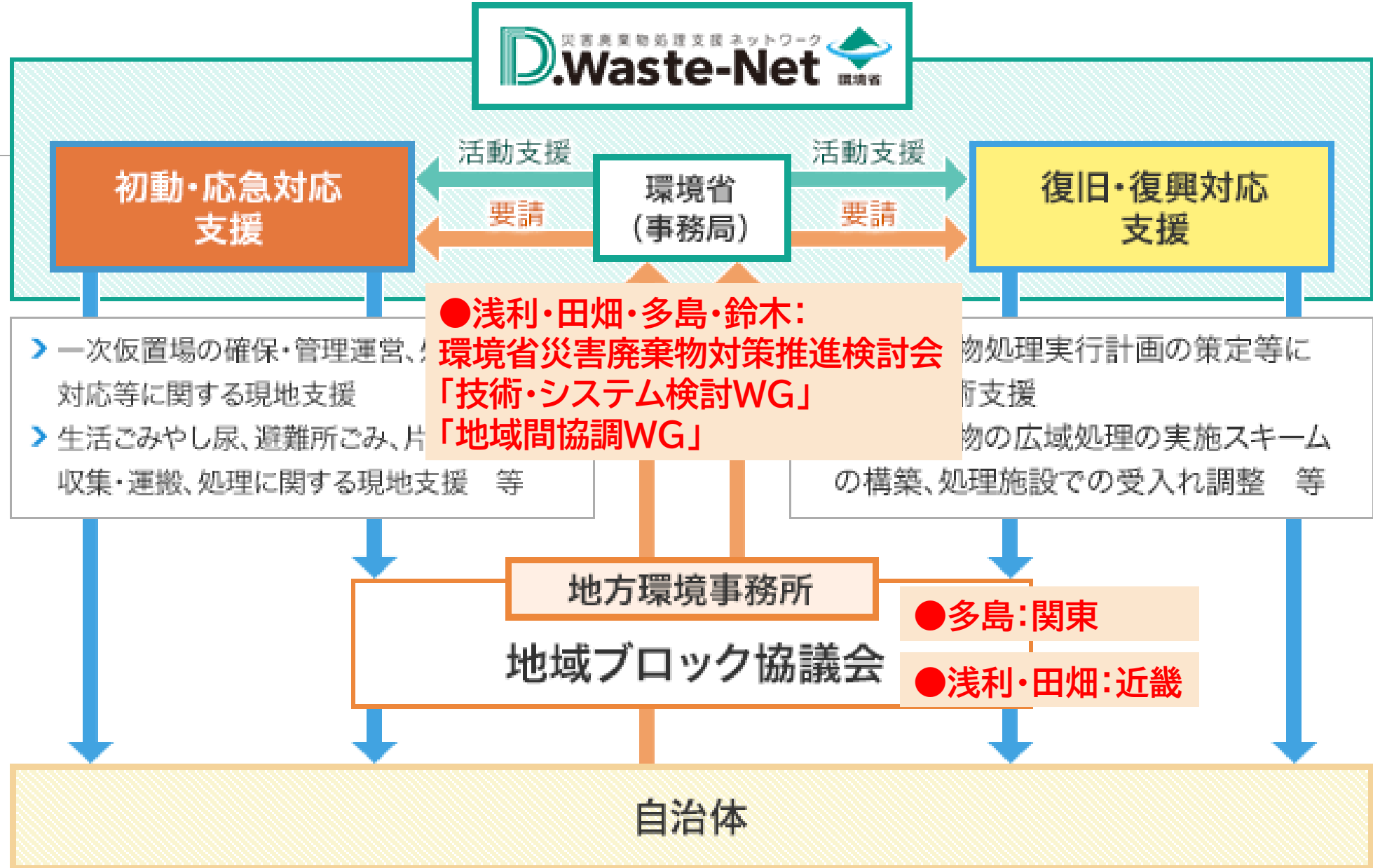
### 第33回廃棄物資源循環学会研究発表会 災害廃棄物研究部会の「これまで」と「これから」

- ・開催日:2022年9月22日(木)09:00-10:30
- ・開催場所:宮崎大学木花キャンパス
- ・受講者:研究発表会参加の皆様

# ■ 災害廃棄物処理支援の全体像



# ■ 災害廃棄物処理支援ネットワーク



① 国・自治体による事前対策の支援

災害廃棄物処理計画の作成支援

■計画全体の構成や記載項目についての助言

●浅利・田畑:京都府, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県

●神保・多島:富山県

例) ・有害廃棄物の管理・処理  
・災害廃棄物の再生利用

研修実施支援

講演

■災害廃棄物の基礎についての講演

例) ●川畑:関東地方環境事務所

■個別事例についての講演

例) ●森:高知県

■災害時における廃棄物の処理  
■人材育成  
●鈴木:九州地方環境事務所, 佐賀県, 愛知県

参加型研修 ※

■研修プログラムへの助言

例) ・凶上演習を含む研修プログラム  
・協定の実行性

■研修でのテーブルワーク  
■研修での全体ファシリテーション  
■研修での講評

災害経験の検証

■処理マニュアルの作成

■災害廃棄物処理の記録誌・検証報告書の作成支援

●森:近畿地方環境事務所住民啓発モデル事業

●田畑・森:和歌山県かつらぎ町片付けごみ搬出模擬訓練

●森・中山:川崎市市民グループ展示etc

■災害時の情報分析ツール・フォーマット(被害情報マップ等)の作成

■専門家を対象とした講習会の実施

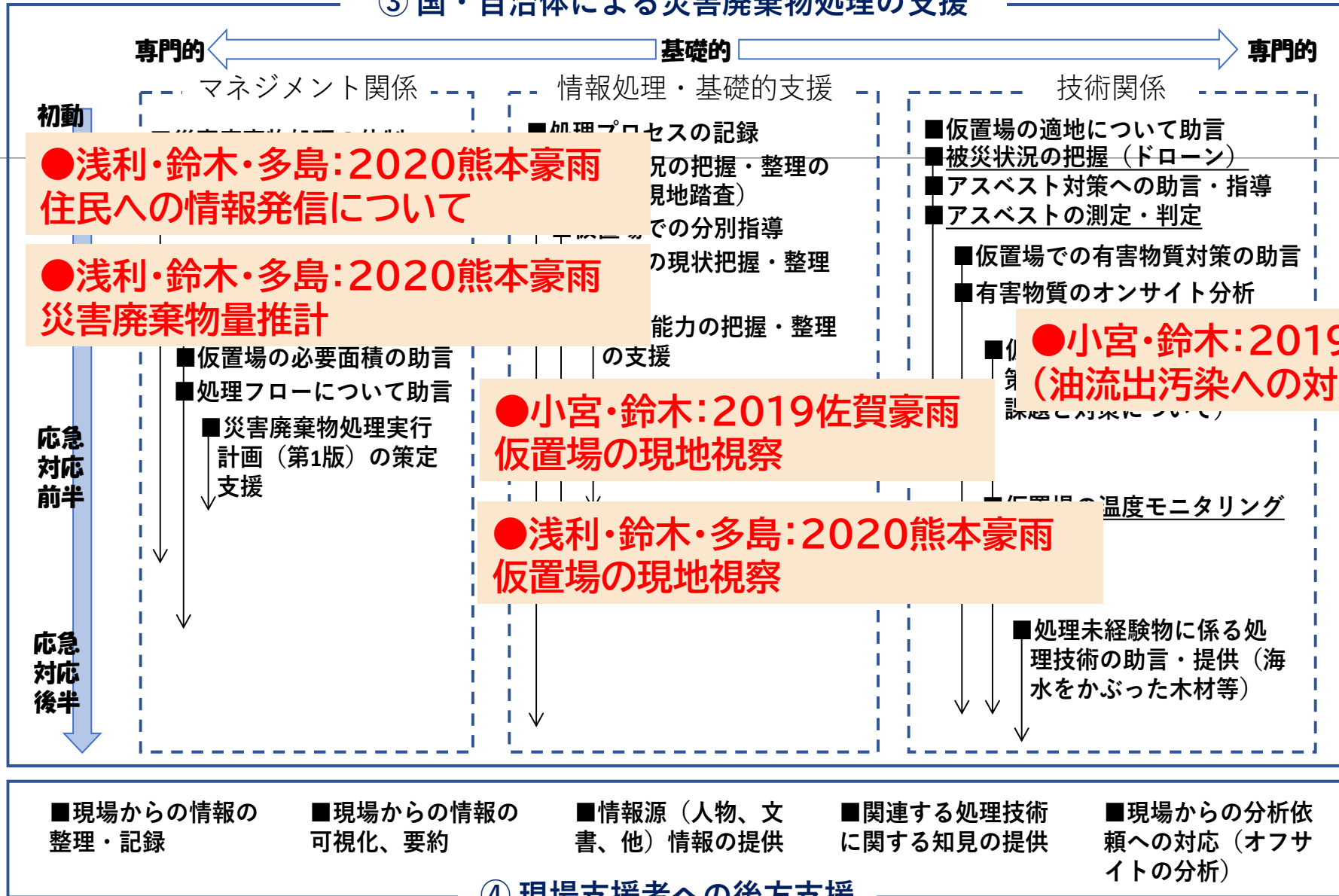
■最新の事例の紹介

② 支援者の育成・レベルアップ

○自治体における災害廃棄物対応力の向上  
○自治体と専門家の信頼関係の醸成

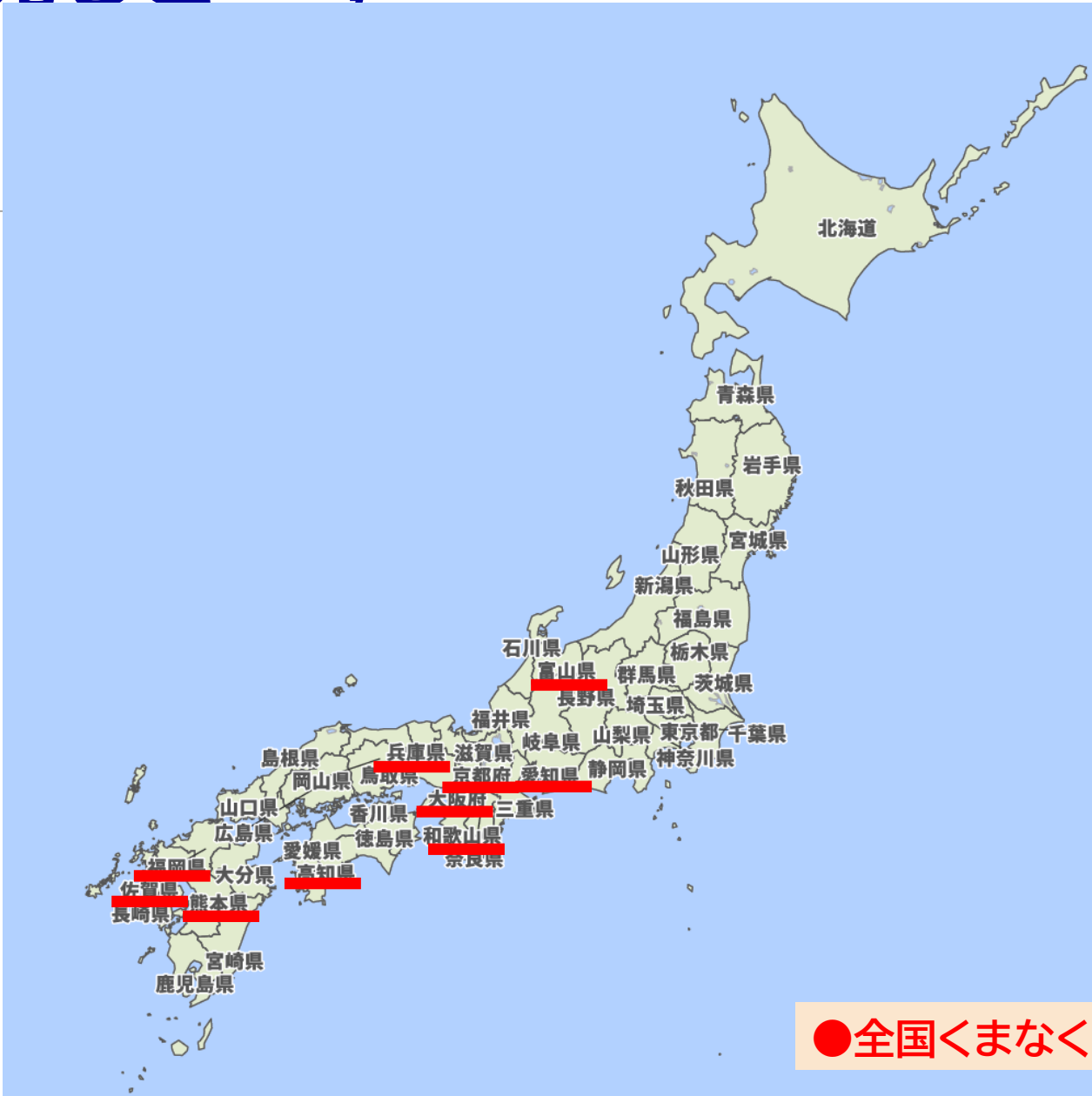
○災害時の支援に有用なツール・ガイド  
○支援者の自信の醸成

③ 国・自治体による災害廃棄物処理の支援



④ 現場支援者への後方支援

# ■日本全国で見ると・・・



●全国くまなく・・・, とはなっていない

# ■防災学術連携体との連携

## ■2019年12月24日(火):「令和元年台風19号に関する緊急報告会」

- 浅利美鈴・鈴木慎也:「災害廃棄物問題の特徴と対応」

## ■2021年11月6日(土):

### 「防災教育と災害伝承への多様な視点—東日本大震災から10年を経て—」

「ぼうさいこくたい2021」開催期間中のもの

- 浅利美鈴・鈴木慎也:「災害廃棄物～多様な関係者と考える～」

## ■2021年12月6日(月):

### 「災害廃棄物の“量”をまず知る・減らす ～廃棄物資源循環学会の取り組み～」

防災学術連携体連絡委員を対象としたウェブ研究会の開催

- 田畑智博:「毎年発生する水害を中心に」
- 中山裕文:「ドローンによる災害廃棄物量の推計」
- 多島良:「被災自治体への支援の一環として ～プラットフォーム等の活動紹介～」

## ■2022年5月9日(月):「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」

- 鈴木慎也:「中小規模自治体の平常業務の実態を踏まえた災害廃棄物対策」

# ■環境省との連携

## ■2022年10月23日(日)予定:「災害廃棄物対策推進シンポジウム」

テーマ「災害廃棄物処理の**経験**をいかに**伝承**していくか」

●田畑智博:「災害廃棄物の**発生**と**処理**に備える、伝える」

●鈴木慎也:後半パネルディスカッションのファシリテーター



# ■研究活動

## ■2017～2019年度:文部科学省科学研究費

- 鈴木慎也・平田修・小宮哲平:「災害廃棄物を受け入れた埋立地の環境リスクの評価」

## ■2018～2021年度:環境省環境研究総合推進費

- 多島良・浅利美鈴・鈴木慎也:  
「災害廃棄物対応力向上のための中小規模自治体向けマネジメント手法の開発」

## ■2019年度:関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団

- 田畑智博:「災害廃棄物の発生抑制を目的とした家庭における家財保有の実態調査」

# ■これまでの振り返り

## ■「現場・当事者(特に国・自治体)への支援」が活動の中心

- 災害廃棄物処理計画の作成支援, 研修実施支援(講演, ワークショップ補助etc.)
  - ・全国くまなく..., とまではいかないが, 活動には一定の**成果**
- 対照的に「支援者の支援」は**少ない**
- むしろ**住民**との関わり方を模索しつつある
- 他学協会・他機関との連携もこれから

# ■今後の展開

## ■現場・当事者に寄り添う支援(行政関係者のよき相談役)

- 住民参加**も促しつつ, 継続的な支援ならびにその拡充
- 「支援者の支援」→ 支援というよりは, **情報交換**や**連携**の強化
  - ・行政関係者とのよき**パイプ**役, 潤滑油を目指す

## ■学会カラーを出した実務的支援の実施, 研究活動の活性化

- 災害廃棄物量**推計**に対する要望が強い
  - ・例えば, 片付けごみの推計など現場に役立つデータの提供etc.
- 学術的にも意義のある研究活動, 他学協会・他機関との連携を!

---

ご清聴ありがとうございました

災害廃棄物研究部会では、  
部会員の皆様を募集中です！

